



春季総体など、お疲れ様でした！上位大会に進出する皆さん、おめでとうございます。また、成績にかかわらず、何にも変えがたい達成感や充実感を得た人もたくさんいることと思います。今、まさに「青春ど真ん中」にいる皆さんにとって、毎日のあらゆる場面で成長の機会です。大きな区切りとなるこの時期に、改めて進路実現と関連づけて自分の高校生活や自分自身を見つめ直してみましよう。自分はどんな大人になりたいか、仕事や研究などを通じて追いかけていきたいものは何か、どんなことに興味があるか、挑戦してみたいことは何か、自分なりの課題をもって授業や学習、学校行事や部活動など様々な活動に取り組んでいるか…などなど、意識しながら高校生活を充実させてほしいと思います。

ところで、3年生は6月と7月、1, 2年生は7月に県模試を受験しますね。1年生にとっては、学習面での「全国大会デビュー」と言ってもいい試験です。そこで、今回は、模試の意義や効果的な受験の仕方、そして、その先にある大学入試（一般選抜）について特集します。

### ■県模試を受ける意義と活用法

#### 意義① 自分の実力と位置を知る

学校の定期考査と異なり、模試はそれまでに学習した広い範囲から出題されます。よって、自分が分かったつもりになっていた分野、苦手な単元などの弱点がより明らかになります。また、模試は全国規模で行われるため、自分の位置を客観的に把握できる点に大きな意義があります。

#### 意義② 本番で力を出す練習になる

県模試は入試本番を見据えた内容や出題形式で構成されており、問題の難易度や時間配分を体験できる点でも有効です。本番同様の緊張感の中で問題を解くことで、時間の使い方に関する課題も見えてきます。さらに、模試を受けるまでの過ごし方、食事や睡眠、休み時間の使い方まで含めての練習だと考えましょう。

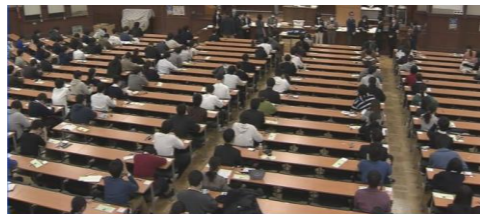
#### 活用① 模試受験後は必ず解き直しを

模試は受けるだけでは十分な効果は得られません。最も重要なのは受験後の振り返りです。模試が終わったら、できるだけ早いうちに解き直しをしましょう。「この文章の、この部分から意味が分からなくなった」「この問題の計算に時間がかかってしまった」「この単語が分からなかったために、英文や古文漢文が最後まで読めなかった」こうした感覚が残っているうちに復習することで、課題がより明確になり、改善につなげやすくなります。解答解説が配られたら、即、解き直し！模試を受験した後、1週間くらいかけてじっくり取り組みたいですね。特に、知識不足による誤答と、理解不足やケアレスミスによる誤答を分けて考えることが大切です。前者はインプットの強化、後者は演習量を増やしたり見直し方法を改善したりすることによって対応できます。Classiの「学習トレーニング」機能を使って、自分の苦手な課題に取り組むのも効果的です。

#### 活用② 結果データをよく見よう

個人別成績が返却されると、順位や得点、特に3年生は志望校の判定に目が行くかも知れません。しかし、まずは分野別の得点分析に注目し、自分の得意・不得意を具体的に把握しましょう。そうすることで、学習の優先順位を明確にできます。やみくもに勉強するのではなく、目的意識を持った学習につなげることが成績向上と合格への近道です。

模試は「今の実力を測る場」であると同時に、「これからの学びを方向付ける場」でもあります。一回一回の模試を大切に、受験→分析→改善のサイクルを回していきましょう。その積み重ねが、志望校合格へと確実に近づく力となります。



### ■大学一般入試の仕組み(概要)

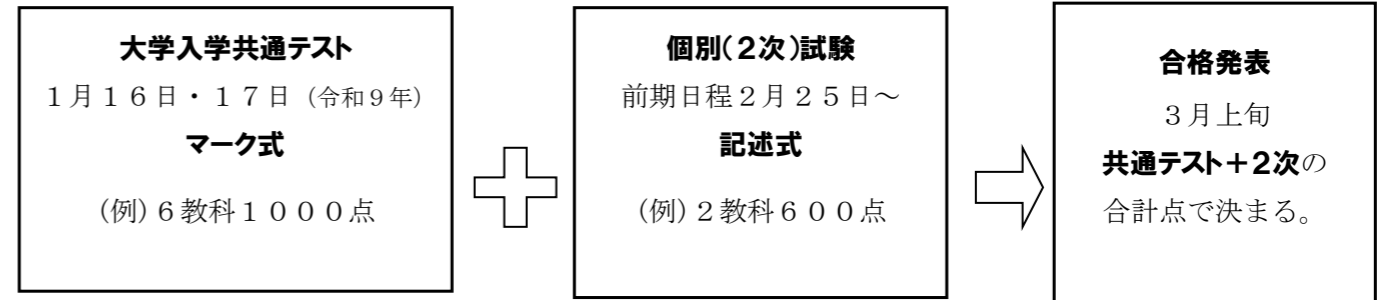
以下に示すのは、飽くまで一般的な日程や仕組みです。大学毎に個別試験の時期や内容・形式などが大きく異なります。どの大学を受験するにしても、「選抜要項」と「募集要項」は必ず熟読しましょう。

- ①「入学者選抜要項」【5月頃～7月末】…各入試の募集人員、入試日程・科目・配点などが記載されている。
- ②「募集要項」(願書)【10月中旬～12月中旬】…「選抜要項」の内容に加え、受験の際の注意点、出願に必要な書類も含まれている。

#### (1) 国公立大学

##### ①入試の方法

・合否判定は、大学入学共通テストと個別試験（2次試験）の総合点で行われる。（配点は学部により異なる）



・共通テストの得点は本人には通知されないため、共通テスト翌日の自己採点の結果に基づき、2次試験の出願をする。（前期・後期・中期日程とも、出願は1月下旬～2月上旬 同時に出願する。）

##### ②出願パターン

・2次試験は、前期日程と後期日程（一部の公立大は中期日程や別日程[独自日程]）に分けて実施され、受験生は2回（中期や別日程を受験した場合は最大3回以上）同じ大学または違う大学を受験することができる。

◎試験日程の組み合わせ方によって、次の4通りの出願・受験ができる。

- ① 前期 + 後期
- ② 前期 + 公立大中期
- ③ 前期 + 公立大中期 + 後期
- ④ 公立大中期 + 後期

・これらの組み合わせの中で、①や③のパターンの出願が一般的である。  
・但し、上の①～③で、前期日程試験に合格し、入学手続きをした者は、後期日程、公立大中期日程を受験しても合格できない。  
・第1志望は、前期日程試験の大学・学部を設定するのが基本である。  
・国立大学の募集定員は、前期と後期ではほぼ8：2に振り分けられている。但し、年々、後期日程での募集を廃止する大学が増加している。

#### (2) 私立大学

私立大入試では、主流の3教科型の入試をはじめ、得意科目や高得点科目など特定の科目の配点を高くして合計点を算出する方式、共通テストの結果を利用して合否を決める「共通テスト利用入試」、全学部・学科が同一の問題を使って同じ日に試験を行う「全学部日程入試」、都合のいい試験日を選べる「試験日自由選択制」など、バラエティーに富んだ入試が実施されている。試験日が異なれば、志望する学部・学科を複数回受験できる。ただし、共通テスト受験前から3月下旬まで、大学や学部学科によって出願の時期も大きく違うため、「気がついたら出願期間が終わっていた」などということがないよう、より注意深く日程などを確認する必要がある。